

Syllabus Id	Syl.-062332
Subject Id	Sub-062-007700
更新履歴	20080314 新規
授業科目名	日本語 Japanese as the Second Language
担当教員名	高澤啓子 TAKASAWA Keiko
対象クラス	5年留学生
単位数	1履修単位
必修/選択	必修
開講時期	20 通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	留学生選択教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

長い留学生活を送るためには「生活に必要な日本語」「人間関係をつくるために必要な日本語」「学業に必要な日本語」がどれも必要となる。いまや高い知識と能力、技術があれば、日本人も外国人も同じ条件で進学・就職が可能な「国際人材時代」となっている中で、留学生にはより高い日本語能力が求められる。上級レベルになり表現力がつくと、丁寧さにおいても運用面での使い分けが要求されるようになる。対人関係の発展に重要な待遇表現を見直し、それぞれの立場や状況で期待されるコミュニケーションが持てるようになることを目指し、文法上・用法上のルール、待遇レベルの判断を左右する要素について考え、場面に合った使い方とふさわしい表現を学ぶ。前期の初めでは、日本の大学に編入学する際の進学と奨学金のための面接練習をする。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語能力試験 1 級程度の日本語能力、日本事情(文化・生活・習慣)

	重み	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
	D 日本語による表現能力、コミュニケーション能力を養う。異文化理解。		
学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 目標達成度試験の実施要領は別に定める。 		

授業目標

自分の立場、話す相手、周囲の状況に応じてふさわしい表現が選べる。知識として得た用語と表現を使用して実際にコミュニケーションが出来る。「日本(人・社会)」という異文化を理解しカルチャーショックを克服出来る。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業概要、評価基準等の説明。地震と防災について。	
第2回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第3回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第4回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第5回	待遇表現と使い方	ございます、丁寧化できる従属節	
第6回	待遇表現と使い方	接辞	
第7回	待遇表現と使い方	人を表す表現、動詞・形容詞以外のあらたまった表現	
第8回	待遇表現と使い方	授受表現の形と使い方	
第9回	待遇表現と使い方	授受表現の様々な用法	
第10回	待遇表現と使い方	丁寧体と普通体の使い分け	

第 11 回	待遇表現の場面	依頼する	
第 12 回	待遇表現の場面	依頼を承諾する、依頼を断る	
第 13 回	課題・演習	高専祭参加（展示発表）準備	
第 14 回	課題・演習	高専祭参加（展示発表）準備	
第 15 回	前期末試験	まとめ	×
第 16 回	課題・演習	高専祭参加（展示発表）準備	
第 17 回	課題・演習	高専祭参加（展示発表）準備	
第 18 回	課題・演習	高専祭参加（展示発表）準備	
第 19 回	待遇表現の場面	文句・苦情・不満を言う	
第 20 回	待遇表現の場面	助言を求める、助言・忠告を与える	
第 21 回	待遇表現の場面	助言・忠告を理解する	
第 22 回	待遇表現の場面	賛成意見・反対意見を述べる	
第 23 回	待遇表現の場面	自分の意見を述べる、評価する	
第 24 回	待遇表現の場面	評価に対応する	
第 25 回	待遇表現の場面	許可を求める	
第 26 回	待遇表現の場面	自分の行動を申し出る	
第 27 回	待遇表現の場面	感謝する	
第 28 回	待遇表現の場面	わびる	
第 29 回	待遇表現の場面	総合演習	
第 30 回	後期末試験	まとめ	×

課題とオフィスアワー

評価方法と基準

評価方法

試験、課題、授業に臨む姿勢等を総合的に評価

評価基準

前期・後期（試験 40%、課題・提出物 40%、出席・授業態度 20%）
 学年末評価（前期 40%、後期 40%、課題 20%）

教科書等	小川誉子美・前田直子著、日本語文法演習『敬語を中心とした対人関係の表現』 待遇表現、(シリ-I-ネットワーク)¥1,300 + 税、 その他必要に応じて教員が用意した資料
先修科目	日本語中級、日本事情、
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	授業の目標を明確に説明するよう心がける。伝達事項を理解しているかどうか確認するよう心がける。
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 留学生の理解度に応じてシラバスの変更を行うことがあります。